ピアノ伴奏法

いわゆる「簡易伴奏」は、右手にメロディー、左手に和音という形態だが、時として弾きづらいこともある。ここでは、容易に弾け、なおかつ指導に役立つ「簡易伴奏」の方法を紹介する。

■ 弾きやすい伴奏で指導力を高める

生徒たちがメロディーを歌えるようになったとき、ピアノ伴奏が和音のみを担当すると比較的演奏が容易になり、歌声に注意を払いやすくなる。さらに、豊かな和音の響きに支えられ、より歌いやすくなる。たとえば「O sole mio」(教科書p.48)

譜例1 「O sole mio」を和音とリズムで伴奏する例

①

※右手あるいは左手を2分音符で弾いても良い

②

譜例2 「小さな空」を和音のみで伴奏する

①

※このようにアルペッジョで弾いても良い。また、和音ごとにペダルを使用する

②

Fine D.S.

※①の譜例の和音を下から上に順に8分音符で演奏すると、このような滑らかな伴奏となり、曲想にも合う

③

の場合、使われている和音の種類はほぼ譜例1-①程度である。これをまず和音のみで弾けるようにする。次に譜例1-②のようにリズムをつけることで、生き生きとした伴奏を演奏することができる。

このような方法で譜例2-①の「小さな空」(教科書p.18)を弾いてみたい。アルペッジョにより、3拍子の音楽の流れに合う柔らかな響きの伴奏になる。なお、この伴奏では小節の頭の音をメロディーの音と同じにしてあるので、歌も歌いやすくなる。さらに譜例2-②のように分散させるとより滑らかな伴奏となる。右手でメロディーを奏でる簡易伴奏版「小さな空」(別冊p.8)とともに、生徒たちの進度に合わせて利用したい。

譜例3 「Voi che sapete」(教科書p.34)の左手をアルペルティ・バスにして伴奏する

D.C.

⊕Coda